

高砂市議 一人会派 緑の党グリーンズジャパン

井奥まさきの市政ニュース

2016.12 (月刊+：12月号 通算110号)



[自宅] 兵庫県高砂市荒井町新浜 2-19-9
Tel 079-444-2343 Fax 444-2418
E-mail: ioku3@gmail.com
http://ioku3.sakura.ne.jp 新ブログも
ツイッター：@ioku3 Facebook・LINE: 井奥雅樹

「井奥まさき」
でweb検索を

12月議会 登市長 「ありのまま」でじっくりと教育の質を高めましょうよ

高砂市議 井奥まさき

○何をあせったのか 12月議会に唐突な提案

私はかなり厳しい「市長批判派」と自他ともに認めています。登市政で評価している部分もあります。「石橋を（わたる前に）たたいて壊す」と市長選挙直後の神戸新聞コラムに登市長の市政運営が論評されていました。言い得て妙ですが、それは欠点だけとは限りません。団体代表や支える多数派の市議会議員など有力者の声を聞きながら調整型で派手なことをせず、答弁などで守りに強いというのは長所でもあります。総合政策審議会では有識者から「漢方薬のような政策群」という独特の褒め言葉もありました。

しかし、私いわくの「四者敗北（現職も、2新人も、不戦敗の陣営も敗北）」という4月の市長選挙の結果を受け、前回とほぼ変わ

らない1万6000票の得票に妙なあせりを持ったようです。他の2新人候補が「市長の強いリーダーシップ」を強調したことや、リーダーシップを発揮している周辺市町の市長らに対抗意識を持ったのかもしれない。

12月議会に唐突に発表された「主に一人っ子・高額所得者向けの保育料相当分の助成金（最大で年収100万円以上で年9万円程度）」はまさしくそんなあせりの象徴でした。

○いい政策でも「バラマキ」はダメ、優先順位を見極めて

私は「子育て」に力を入れる方向性は賛成です。私自身も「子ども子育て日本一へ」と3つの政策の柱に掲げています。しかし、「市のあらゆる政策それぞれに悪い政策はない」（ベテラン市議の名言）のです。どんな政策でも誰かは喜びます。問題は「メリハリ」

であり、「市政全体を見渡した上の優先順位」なのです。

登市長が就任してから幸いなことに「経済好調」「地方への配分重視」「過剰な国の補助金」と財政的には大きな追い風でした。ただ、いつまでもそうはいきません。登市長の答弁から透けて見える「年度ごとに予算が組めればいい」では、結局は借金や古い施設といったツケは子どもたちに回されます。

○じっくりと教育の質を高めましょうよ

同じお金を費やすにしてもトータルにじっくりと教育の質を高める「漢方薬のような」地道な政策が必要なのです。裏面に対案を示しました。

登市長、無理せず「ありのまま」でいいんじゃないですか。

予算修正

議長をのぞく 全員の議員で予算修正 未熟な「助成金」提案に再考を促す

上でも触れたように、12月議会で毎年5000万円前後の「助成金」を4、5歳児対象に行うという提案が行われました。保育料の幼児教育部分の「半分相当」の助成金を支給というものでした。

大きな方向性はいいのですが、制度設計があまりに粗雑でした。

高所得の子どもが少ない家庭に助成金が偏って多く配分される仕組みになっています。まず、「多子世帯助成金」対象者がほぼ対象

外です。またもともと保育料が低い世帯、無認可保育園に通園している家庭は除外されます。一方で「独自運営の私学だから」と「多木学園 別府幼稚園」など有名私立幼稚園への通園者も除外されています。

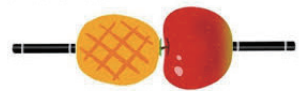
「教育施策全体・財政のバランス」といった観点で市議会の全会派から質問が集中しました。決定時期が2016年10月であり、唐突感も否めませんでした。

そして、とどめは私や他の議員が指摘した「助成金が課税対象になるかもしれない」という点です。もし課税されたら、例えば最高額の所得者（税率45%）は年9万円の助成金をもらっても一部を国税に取られます。この件については市はまったく考えておらず調査もしていませんでした。あまりに未熟な提案として全員の議員（議長をのぞく）で予算をゼロにする修正となりました。

1月22日(日) 13時半〜 高砂市役所南庁舎 高砂市議会報告 各委員会からの報告があります。ぜひお越し下さい。

2016年 印象に残った曲は「PPAP」と「前前前世」そして政治は…

PPAP



いよいよ2016年も最後ですね。例年年末には子どもを母がいる中島の実家にほおりこみ、夫婦で荒井の家を大掃除。掃除終了後は一息ついて宿泊準備をして実家を夜に訪問。31日には大阪からやってくる妹夫婦らとともにテレビを見て過ごすのが例年の習慣です。大晦日のテレビといえば紅白歌合戦。今年一年の集大成番組を見ながら「この曲知っている」とみんなで言い合っています。

今年の我が家で流行った歌といえば、「PPAP（ペンパイナッポー

アポーペン）」と「前前前世」です。Youtubeで覚えた息子がPPAPを歌っているのを「変な歌」と思っていたら、あっという間に流行りました。また、映画「君の名は」の上映前後から流行っていた主題歌「前前前世」は娘が大好きで、家族の流行り歌になりました。この文章を書き出していると、突然隣で息子が「I have a 民進党、I have a 緑の党、and 民進・みどり、I have a 緑の党、I have a 共産党、and みどり・共産、民進・みどり…みどり・共産…、and 野党共闘」とPPAPをもじっ

て歌っていました。そうそう、2016年は政治分野では参議院議員選挙での野党共闘が大きなポイントでしたね。来年もぜひ。

それを聞いて娘は「私は政治のことは『ぜんぜん』わからない…」と「前前前世」のフレーズで歌って答えています。君のような「政治に無関心」な人に伝わる言葉を来年は考えないかね。

そんなやりとりを聞いていた妻が一言「ちょっと育て方を間違えているんじゃない…」とぼそり。いやはや。みなさんよいお年を。

助成金対策 「主に一人っ子・高額所得者向け」の保育料相当分の助成金 予算修正された提案に代えて 私・井奥が考える 年間5000万円あれば、こんなことができる！

提案	必要額(一般財源)	提案の内容	時期
① 4、5歳児保育料減免	2000万円	教育費の半額ではなく、上限2万円程度。保育料の条例改正で課税の可能性がゼロ多子世帯は別に減免を併用可	平成28年度(2016)から
② 3～5歳の子どもの持つ家庭へ年1万円の「地域振興券」	1000万円	市内買い物に使える(市内商業団体も一部負担)課税対象の研究が必要	平成30年度(2018)から
③ 幼稚園・小学校・中学校の教室冷暖房完備	1000万円の「頭金(一般財源)」	毎年1校ずつ→国の補助金などもあわせ、年間数千万円の建設事業発注費にもなる	平成29年度(2017)から
④ 学校司書や補習授業の講師配置	1000万円	教職員の負担軽減にもなる形で	平成29年度(2017)から

保育料減免という現在の方針の延長上で考えましたが、本当は②③のような「地域でお金がさらに回る」仕組みと組み合わせる方が優れていると思います。他を削ってもっと財源が回れば「3歳児

教育」や地域の習い事や塾・家庭教師の育成にもなる「教育バウチャー制度(例えば18歳以下の子ども一人ずつに年間1万円「習いごと券」を支給)」も考えたいものです。

また、本当は学校修繕関係や人員増は別に考えるべきです。

いずれにしても来年2017年3月議会までの限られた時間ですが、担当者らの知恵ある再提案に期待したいものです。

一般質問 GDP至上主義からの転換を 新たなモノサシとして幸福度指数の導入は？

質問：お金をしゃにむに稼ぐことが幸せの向上にもなる…という時代から、多くの市民は「成長も大事かもしれないが、なんでも成長すればいいの？」と少しずつ疑問を抱き始めています。正規労働者は長時間労働、非正規労働者は不安定な働き方でヘトヘトになって、家族ともゆったりとした時間を過ごせない…たくさんの品物に囲まれていながら子育てや老後の

ど、どこか不安で追い立てられているような社会は本当に幸せなのでしょうか。GDP以外のモノサシが必要です。こういった発想の一つに例えば「地球幸福度指数」という指標があります。2016年の上位は「コスタリカ、メキシコ、コロンビア」。このモノサシでは日本はなんと58位です。

12月14日に「カジノ法案」が可決され、成長戦略の一環とし

て採用されています。「武器輸出、原発輸出、カジノ」で成長しようとする「成長戦略」は国家としての品位がありません。幸福度指数はすでに荒川区ではGAH(荒川区総幸福度)として導入されています。ぜひ研究を。

回答：幸福度指数に関しては導入検討をした経緯がある。引き続き研究していく。